



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2014 8



7月4日(金)、兵庫県民会館において「ひょうご安全の日推進事業 国際協同組合デー・兵庫県記念大会」を開催。県内の生協・農協(JA)・漁連(JF)・森林組合(JForest)の組合員や役職員をはじめ、340人がつどいました。記念講演では、ラジオパーソナリティ 谷 五郎氏が「言い伝えること」「意識を高めること」「つながりを大切にすること」を伝えました。(関連ページP.3)

六十年のときを



神戸市民生活協同組合 専務理事
兵庫県生活協同組合連合会 理事

嶋 秀穂
(しま・ひでほ)

神戸市民生活協は、1955年（昭和30年）3月に誕生した。来年は、創立60周年の年である。1955年といえ、高度経済成長の始まった頃である。1964年には東京オリンピックが開催され、それに先駆けて東海道新幹線が開業となった。オリンピックは、小学校の授業時間中に講堂に集められ、テレビ観戦したのを覚えている。当時私は小学生だった。

続いて1970年には日本万国博覧会（大阪万博）が開催された。アメリカに次ぐ経済大国となった日本の象徴的な意義を持つイベントと言われた博覧会である。（その後、日本で国際博覧会は四度開催された。）「長蛇の列」という言葉が流行したのはこの博覧会だったと思う。

神戸市でも1981年に神戸ポートアイランド博覧会が開催され、地方博覧会のきつかけとなった。

こうした時代を背景に神戸市民生活協も火災共済事業からスタートし、順調に業績を伸ばし、事業も拡大していった。市からの委託もあり、ホテルの管理運営や異人館の運営なども実施した。そして、昭和から平成に入り、高度経済成長期から安定経済成長期（この

期間にバブル期がある。）になり、やがてバブル崩壊、急激に景気後退してしまう。

そして、平成7年に阪神淡路大震災がおこる。当組合の入っていたビルも倒壊こそ免れたが、かなりの被害を受け、仮事務所を別の場所に設けなければならなかった。そこで業務を続け、火災共済に加入している組合員の方々に被害の程度に応じた見舞金を支給することを決断し、総額で約14億円の見舞金を支給した。そんな中で、火災共済加入組合員から支払請求があり、当組合が規約上免責条項に該当すると判断した事案の一部で訴訟となったものもあった。

あの震災から来年で20年である。当組合の復旧・復興に向けて、先達の苦労が思われるが、数多くの方々から支援をいただいたことも事実であり、震災で「支え合い、助け合う」という生協の理念の大切さが改めて認識されたところである。

以後、震災で休止していた異人館の運営事業など再開され、あるいは新たな共済の商品を開発し、順調に業績を上げていった。しかし、役割を終えた事業もあり、組織の規模は縮小傾向にあった。

そして、消費生活協同組合法が、2008年4月に改正施行された。神戸市民生活協もその改正を受け、共済事業のみの事業展開を昨年度からスタートさせた。そのことは、今年6月に開催した総代会の平成25年度決算報告の中で報告することができた。

同法的大幅な改正は、1948年の

制定以来60年ぶりということ、こちらも60年である。

60年と言えば、人で言うなら還暦である。生まれた年の干支（十二支）が60年で一周するのだが、「生まれた時に還る」と言った意味合いのことを聞いたことがある。つまり、原点に戻って考えよ、ということなのかも知れない。発足当時のこと、事業拡大していったころのこと、震災時のこと、法改正で共済専業となったことなど、これらのことをもう一度見つめ直し、共済制度の意義を考えるとみなのかも知れない。

人なら現役をリタイアする年齢でもあるが、超高齢化社会の現代では定年延長や再任用といったことが進められている。共済事業の契約実績にも高齢化ということが表れている。火災共済加入者は60歳以上の方が80%を超えている。若年層では…

「共済といわれてもピンと来ない。保険なら分かるが…」とある若い人の意見を聞いた。

自分達は分かっている、人びとにその意義や助け合い支え合うという基本理念が伝わっていないければ事業の発展は望めない。あるいは、伝わっていないとしても、そのことに価値を見出し、もたらさなければ同じことである。

もし生活協同組合が株式会社と同じようなものとする考えが、うねりのように押し寄せてきたときに果たしてどう対処すべきなのか。

若い人たちへのアプローチを含めたいなる課題ととらえ研究していかなければならないと考えている。

CONTENTS

2. 想点
3. 国際協同組合デー・兵庫県記念大会 報告
4. 単協通信 神戸医療生活協同組合／
宝塚医療生活協同組合
5. 単協通信 たじま医療生活協同組合／
神戸市民生活協同組合

6. 協同組合のかけ橋
7. 兵庫県のページ
8. 神戸開催10年記念
「地球のステージ&映画 ふしぎな石」のご案内／
県連日誌／編集後記

第92回

国際協同組合デー 兵庫県記念大会を開催

震災20年・兵庫JCC記念大会等開催事業実行委員会は、7月4日金、兵庫県民会館けんみんホールにおいて、「協同の力で未来を拓く」をテーマに、「ひょうご安全の日推進事業第92回 国際協同組合デー 兵庫県記念大会」を開催しました。兵庫県、神戸市をはじめ多くのご来賓の皆様をはじめ、兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）を組織する生協、農協、漁協、森林組合の主催者団体の役員と一般参加者、340人が出席しました。

世界の協同組合に携わる人々が、平和とよりよい生活を築くために運動の前進を誓い合う「国際協同組合デー」は、毎年7月の第1土曜日と定められており、兵庫県では毎年7月の第1金曜日に開催しています。また同日に、第31回兵庫JCC委員会が併せて開催され、各協同組合（連合会）のトップが参加し、活動報告および年度方針の確認、意見交換などを行いました。

当日は、有田聡里さん（兵庫県農業協同組合中央会）の司会で開幕。兵庫県、神戸市をはじめ多くのご来賓の皆様をはじめ、合わせて340名が参加。会場は満席になりました。

第一部の記念式典では、主催4団体を代表して兵庫県生活協同組合連合会・本田英一会長（兵庫県協同組合連絡協議会会長）が挨拶。続いて、兵庫県副知事 金澤和夫様、神戸市市民参画推進局 市民生活部長 清家久樹様からご祝辞をいただきました。

最後に、兵庫県漁協女性部連合会 会長 森武美様が「被災地の一日も早い復興を祈りつつ、これからも協同組合の垣根を越えて、心をひとつにした活動をすすめて参りましょう」と、「第92回 国際協同組合デー 兵庫JCC宣言」を力強く読み上げ、満場一致で採択されました。

第二部の記念講演では、ラジオパーソナリティ 谷五郎氏を迎えて、「阪神・淡路大震災20年を迎えます。あの日、放送し続けて」と題して記念講演。「震災を言い伝えることの大切さ、意識を高めることの大切さ、そして人のつながり、気持ちのつながりを大切にしていきましょう」と話され、会場の参加者は「伝える」との意識を高めながら、楽しいひとときを過ごしました。



挨拶する本田会長



JCC宣言を読み上げる
兵庫県漁協女性部連合会
森武美 会長



講演される
谷五郎 様



神戸市 市民参画推進局
市民生活部 清家 久樹 部長



兵庫県 金澤 和夫 副知事

第92回国際協同組合デー兵庫 JCC 宣言

一昨年、2012年は国連の宣言した国際協同組合年であり、協同組合がこれまで社会経済や食料安全保障、金融危機等の面で果たしてきた役割を国連が高く評価し、国連からの各国の協同組合にこれらの問題にいつそう強力に取り組んでもらいたいという期待に応え、国を越えて様々な協同組合間連携が行われました。

そして昨年、2013年は兵庫JCC創立30周年を迎え、県内の協同組合間の連携は今までよりも更に強固なものになり、各協同組合の様々な事業の中で協同組合間連携の成果を生みつつあります。

そして本年は先の2年間で踏まえて、地域社会や経済、安全安心な食料の供給、環境の保全等において、協同組合の果たす役割とは何かを改めて見つめ直し、これからどのように協同組合同士が手を取り合い発展していくか、大きなターニングポイントを迎えています。

また、本年度は阪神・淡路大震災後20年にあたり、20年前の1月17日、震災は多くの尊い命を奪い、地域社会へ壊滅的なダメージを与えました。しかし地域のつながりはもとより、日本各地より寄せられた温かい支援が復興への励みとなりました。

こうした経験から私たち協同組合組織も3年前に起こった東日本大震災の被災者の方々に支援活動を続けています。被災地の一日も早い復興を祈りつつ、これからも協同組合の垣根を越え、心をひとつにした活動が望まれます。

本日、第92回国際協同組合デーの開催にあたり、生協、農協、漁協、森林組合など、兵庫県内の協同組合に集う私たちは、今こそ協同組合の原点に還り、私たちの身の回りから協同の関係を作り出すことはもとより、「食の安全・安心」や「環境の保全」にかかる取り組みをさらに前進させるとともに、「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。



併せて開催された「第31回兵庫JCC委員会」

兵庫 JCC =
兵庫県協同組合連絡協議会 =とは
【Hyogo-ken Joint Committee
of Co-operatives】

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）は、兵庫県下の生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の4協同組合の相互交流と連携強化を目的に、第62回（1984年）の協同組合デーを機に設立したもので、本年度で31周年を迎えました。

神戸医療生活協同組合

自然に触れたくさんの笑顔があふれた

田植え体験会

6月14日に小野市で「田植え体験会&どろんこ遊び」を実施しました。インターネットからの申込みがほとんどで、大阪や姫路など遠方からの参加もあり、大人30人、子ども37人合計67人でにぎわいました。新加入も3組ありました！昨年参加されたお母さんがお友達を誘って参加されたり、徐々に輪が広がっています。

田んぼの中でかけっこや綱引きをして、子どもはもちろん大人もどろんこになりながら、楽しみました。カエルをつかまえたり、大きなカエルに触ったり、自然の中で思いっきり楽しみ、帰る頃には「楽しかった！」と笑顔があふれていました。今年も家で育てられるように稲をお土産にしました。お米がどのようにしてできていくのかを日々観察すること、できたお米を食べることで食育を目指しています。

神戸医療生協では、さまざまなイベントを通して、親子で体験や思い出を重ね、成長を育むこと、交流を目的とした「いるかクラブ」があり



田植えがこんなに楽しいとは思わなかった！

ます。自然に触れ合う機会、親子で参加できるイベントの企画・運営などをしています。今年も8月に手作りウイナー教室、10月に地引網まつり、12月にクリスマスケーキづくりなども開催します。今後もたくさん笑顔があがるようにと願いながら企画・運営していきます。

(通信員 嶋崎藍)

宝塚医療生活協同組合

東の柏・西の宝塚で一緒に

まちづくりを頑張っていきましょう

5月11日、宝塚医療生協主催「長寿社会のまちづくりを考える講演&交流会」が宝塚市・宝塚市医師会・宝塚市社会福祉協議会後援で開催され、180名が参加された。

第一部は、「活力ある超高齢社会をめざす『千葉県・柏モデル』」と題し、飯島勝矢・東京大学高齢社会総合研究機構准教授がサッカーJリーグ柏レイソルの本拠地・千葉県柏市(人口40万人)での実証研究を基調講演した。

2025年には、かつてない社会の姿があらわれる。世界に先駆けて進行する都市部を中心とした超高齢社会への対応は、日本の危機でもあり機会でもある。自立して暮らせる「健康寿命」を延ばすために、噛む力を含めた「食力」を保つこと。過小でも過大でもなく運動をすること。そして「就労」を含む社会との絆・生きがいをもちつづけるシステムをつくること。さらに、いつかは訪れる認知症・要介護状態になっても、安心して住み続けられ



に始めたネットワークづくりを報告した。宝塚市の行政・医師会・社協・介護保険事業者・市民という「まちづくりの主役」となる人々が一堂に集まった。

(通信員 協野耕一)

第2回バスツアー

7月1日(火)姫路方面へのバスツアーを行い組合員、職員43人が参加しました。今回はNHK大河ドラマで話題の、黒田官兵衛ゆかりの地を回りました。まず手柄山温室植物園で、日本の野生蘭や外国の珍しい植物等を見て、その後灘菊酒造の酒蔵で昼食をとりました。灘菊酒造ではお酒の試飲もあり、順番に一口ずつ回って飲んでおられる方もありました。午後からは姫路市埋蔵文化財センター、御着城跡、官兵衛大河ドラマ館、県立歴史博物館を見学しました。移動の途中には、姫路医療生協の共立病院を、車窓から見ることが



話題の官兵衛ドラマ館へ

できました。各施設では黒田官兵衛に関する展示物が多くありました。またどの施設でも、ガイドさんが

丁寧に説明してくださり「わかりやすかった」との声が多く聞かれました。昨年に続いて2回目の参加という方が多数おられ「1日楽しめた。食事もおいしかった。3回目もぜひ行きたい」と言われる方もおられました。暑い日でしたが、熱中症等で具合が悪くなる方もなく、無事に旅を終えることができました。次回も充実した1日になるような企画にしたいと思います。

(通信員 春木圭介)



身長よりも高い大サボテン

「多可町フェア」で事業を紹介

平成26年6月13日(金)、垂水駅前のレストランで開催された垂水商店街振興組合主催の「多可町フェア」にて、「共済相談会」を実施しました。このフェアは垂水商店街振興組合と多可町のフレンドシップ提携が結ばれて10周年になるのを記念して開催され、当組合としては昨年12月にひきつづき、2度目の参加となります。会場内では多可町3区の特産品や採れたて野菜や寿司の販売、餅つき、ゆるキャラ来場など様々な催しが行われました。

当日は、気軽に訪れていただけのようにアイスコーヒーやオレンジジュースの無料試飲を行い、神戸市民生協の医療共済・火災共済・交通災害共済・子ども共済を紹介した総合パンフレットやティッシュ等を配布するといった広報活動を行いました。梅雨時ながら晴天に恵まれ、イベントには大勢の方が来場されました。参加者の方には冷たい飲み物がないへん好評で、当組合のブースにも行列ができるほどでした。市民の



地域の方々とのふれあいを大切に

方々は交通事故保障への関心が高く、「自転車事故が心配なので入りたい」「共済の内容を教えてください」など、たくさんのお問い合わせをいただきました。

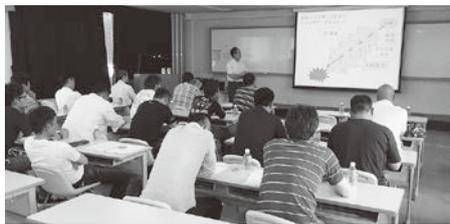
こういった地元主催のイベントに定期的に参加させていただくことで、少しずつ当組合にも親しみを感じていただけるようになってきたと思います。今後も地域の組合員の方々とのつながりを大事にしてPR活動を続けていきます。

(通信員 鹿田裕子)

JF

JF兵庫漁連

大型船シミュレーター 研修会を実施！



筒井調整官による行動分析学の考え方をういた講義

6月7日(土)に独立行政法人 海技教育機構 海技大学校(芦屋市)で行われ、JF 但馬津居山青壮年部員15人が参加しました。

この度の研修会は、津居山青壮年部からの強い要望があり実現したもので、参加者の安全への意識の高さがうかがえました。

研修会は座学と体験の2部構成で開催され、1部の座学では「行動分析学からの安全対策へのアプローチ～なぜ安全行動が根付かないか～」をテーマとして、神戸運輸監視部の筒井宣利調整官による講演がありました。

2部の体験では、海技大学校航海科 岩瀬潔教授により操船シミュレーターを用いた研修が行われ、まず、大型船の中でも比較的動力性能の良いフェリーを設定し、夜間や悪天候、うねり等の条件での航行や船橋からの漁船の見え方を体験したほか、10万tクラスのタンカーを再現したシミュレーターを実際に操船し、感覚の違いを体感しました。

更に、救急救命講習として、同大学校航海科 濱田聡樹助手により訓練用の人形を用い、CPR(胸骨圧迫・人工呼吸)やAEDの使用方法等についての講習も行われました。

企画した津居山青壮年部の中西正行部長は、「貴重な体験が出来た。皆が安全への意識を持つことが重要」と話されたほか、参加の部員からは「圧迫止血などの怪我の応急手当てが知りたい」、「海上での事故事例から、どうしたら防げるのか知りたい」といった意見が出され、海上安全について考える有意義な時間が過ごせました。

大型船の操船シミュレーターを用い、大型船の動力性能を体験する研修会が



JA

JAみのり

小学生に食と農の大切さを伝えるため、田植え体験を青年部西脇支部の部員らがサポート

西脇市の若手農家で構成するJAみのり青年部西脇支部は5月29日(木)、地元の子どもらに食と農の大切さを伝えようと、同市立西脇小学校3年生によるアイガモ農法での米づくり体験の応援に駆けつけました。同部員らが、米づくりを通して、地域の小学生と交流を図るのは今回が初めて。部員の藤原久和さん(47)が所有する同市蒲江のは場5aで、部員4人がサポートする中、児童71人はコシヒカリの手植えを楽しみました。

同校は、食と農の大切さと生命の尊さを学ぼうと、藤原さんとアイガモ農法による米づくりを企画。これまで、藤原さんと同校で行っていましたが、青年部の発足を機に、地元の若手農業者自身が子どもらと交流しながら、地域農業や食の大切さを伝えていきたいと、今年から、西脇支部の部員がサポーターとして参加することとなりました。

最初に、藤原さんが「まっすぐに張ったロープの赤い印の部分に、苗2～3本を植えていきましょう。自分のところが植えられたら、他の子が終わるまで少し待ってね」と説明。その後、児童らは3班にわかれ、部員の「もうちょっと深く植えよか」「植えてるところは踏まないように」といったアドバイスを頼りに、楽しく苗を植えていきました。同校の高橋慶企さんは「幼稚園で一度植えたことがあるだけで、久しぶりに田んぼに入った。田植えはしんどいけど楽しかった」と笑顔を見せていました。

藤原さんは「未来を担う子どもたちに、毎日食べられる幸せや農業の大切さを、自分で体験することで知ってほしい。今後も、地域の農業者として、青年部として、体験をサポートしたい」と語りました。

同校では田植え後、アイガモを放鳥し、無農薬・無化学肥料で栽培。稲の生長とアイガモの成長を観察します。その後、部員らと9月末に稲刈り、脱穀を体験。収穫した米を使って、おにぎりの試食会を行う予定となっています。



児童に植え方をアドバイスする部員(西脇市蒲江のは場で)



最近の消費生活相談事例

テレビショッピングのトラブル

事例

テレビショッピングで、高額なバッグが通常価格の3分の1ぐらいに値下げされていたので、注文した。しかし、届いたものはテレビで見たときのイメージと違うので、気に入らない。画面には「返品不可」の表示があったが、返品したい。

【アドバイス】

自宅で手軽に買い物ができるテレビショッピングは、通信販売に当たります。商品の実物を見ないで注文するので、届いた商品が「テレビで見たときのイメージと違う」、あるいは「サイズが合わない」などといったトラブルが起こることがあります。

通信販売の場合、消費者が自分から購入を申し出るため、訪問販売や電話勧誘販売のように、契約に関して不意打ち性や強引な側面がなく、無条件で解約ができるクーリング・オフ制度はありません。

ただし、事業者は返品条件を表示することが義務付けられています。いったん契約してしまうと、返品や解約は事業者の設けた特約（返品条件）に従うことになります。

広告などに「返品不可」と記載されていれば、気に入らないなどという消費者側の自己都合で返品することはできません。しかし、「返品不可」の場合でも、届いた商品が不良品であったり、自分の注文と違う商品が届いたりした場合は交換を受け付けてもらうことができます。ただ、事業者によっては、交換等の申し出期限を定めている場合もありますので、商品が届いたらすぐに中身を確認することが必要です。

広告に返品条件の表示がない場合には、消費者は商品などを受け取ってから8日間、解約することが可能です。この場合、8日以内に事業者に解約を申し出、解約した場合の返品にかかる送料などは消費者の負担となります。

注文するときには返品や交換条件をはじめ、支払い方法、引き渡し方法など、販売条件をよく確認しましょう。

困ったことがあれば、最寄りの消費生活センターへ相談しましょう。

(兵庫県生活科学総合センター)

MOVE



神戸開催10年記念



地球のステージ

& 映画 ふしぎな石

第1部は、宮城県名取市にクリニックを構え活動する医師・桑山紀彦さんが歌・演奏・語り・映像でつづる「地球のステージ」。紛争地域での子ども達の生きざまや東日本大震災から三年が経過した子ども達の様子をお伝えします。

第2部は、震災後、桑山さんが宮城県名取市の子どもたちと制作した映画「ふしぎな石」。上映後は出演者でもある丹野さんと桑山さんのトークセッションを行います。桑山さんの活動を通して、わたしたちにできることを考えましょう。

- とき **8月24日(日)**
13時~16時半
(開場=12時半)
- ところ **神戸朝日ホール**
神戸市中央区浪花町59番地
- 定員 **500人(申し込み順)**
- 参加費 **大人1,500円(当日2,000円)**
大学生・高校生1,000円
中学生以下無料

「ふしぎな石」あらすじ

2011年3月11日、壊滅的な被害を受けた宮城県名取市 閑上(ゆりあげ)地区。廃墟となった閑上小学校に自然と集まった4人の小学生が見つけた暗号文。4人は5つの石を求め、更地となった自分たちの故郷へ駆け出していく。すべての石が集まった時おこる奇跡とは…。

What's 地球のステージ?

世界の貧困や紛争にあえぐ国々で医療支援や心のケアを行っている NPO 団体。世界中で起こる様々な災害時にも緊急支援を行っています。

2011.3.11、東日本大震災では直接津波の被害を受けましたが、直後から地元宮城県名取市で医療支援や心のケアを行い、現在も継続しています。

世界各地での経験を活かし、多くの人に世界の出来事を伝える「地球のステージ」公演は、1996年の初演から2500回を超えました。

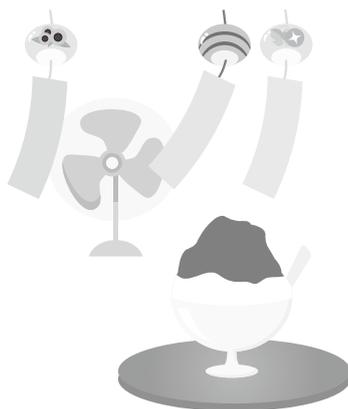
☒お問い合わせ☒

地球のステージ神戸実行委員会 (兵庫県ユニセフ協会内)

電話 **078-435-1605**
FAX **078-451-9830**

編集後記

「暑いですね」が合言葉のように行きかう季節。朝からトワシヤワシヤと鳴いているセミたち。スーパーの店頭では、どれくらい大ききさのカットスイカを買おうかと悩んだりする私……。暑いなかでも、夏の風景を楽しんでいます。☆先日、海の近くの低い木の枝のひとつひとつに、たくさんのおんぼがきれいに留まっているのを発見！少し揺れても、全然動じないくらいに熟睡でした。休養と活動、この時期はとくに気をつけていきたいですね。みなさまそれぞれの夏の楽しみを見つけてながら、暑い季節、どうぞご自愛くださいませ……。(中尾)



県連日誌

8月4日(月) 兵協連第2回理事会

(県民会館 1201)

8月20日(水)

兵協連ピースアクション2014

「広島被爆ピアノ平和コンサート」

(尼崎 ピッコロシアター)